

 		<p>【教育目標】 深く考え 心豊かに 実践する生徒 令和6年3月1日(金) No. 12 新潟市立南浜中学校 校長 坂井 孝</p>
--	--	---

南中 学びと感謝のアラカルト

1年のまとめの時期でもある2月。南浜中ではさまざまな行事や取組が行われました。右の写真は2月26日の今年度3回目の「学びのリフレクションタイム」の様子です。今回は1, 2年生のみの実施でしたが、1, 2年生混在の小グループを作り、その中でそれぞれの振り返りを分析し、1年生は2年生から学び、2年生は1年生に教えることで学びを深めていました。学びのリフレクションタイムで日々の授業の振り返りの質が向上し、ひいては学力が向上することを期待します。



この写真は、2月7日に行われた**学校保健委員会**の様子です。本来は、太夫浜小学校で対面での実施予定でしたが、折からのインフルエンザやコロナ等の感染症の予防ということで、各小・中学校の3会場に分かれ、ZOOMを使ってオンラインでの実施となりました。話し合いのテーマはメディアコントロール。なかなか難しい問題です。当校でも重要課題として取り組んでいますが、なかなか目立った成果が出ないのが実情です。話し合いの中で、家庭での約束事や家庭の協力、コントロールできる環境などの話が多く出されました。是非ご家庭でのご協力をお願いいたします。



生徒会が企画して実施している「**ガムシャラ塾**」の様子です。学習強調週間を中心に実施していましたが、今回は入試間近ということで、3年生を中心に実施しています。

昨年の「ドラゴンさくらんぼ」に続く、放課後の時間の有効活用です。疑問やどうしても分からないことを教務室に聞きに来るくらいのパワーがあればなおいのですが…。

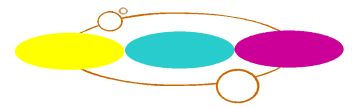
新専門委員長認証式

2月26日の生徒朝会では、新専門委員長の認証式と、新旧委員長の引き継ぎ式が行われました。これで完全に3年生は引退、新委員長のもとで活動が始まります。新しいアイデアと行動力でよりよい南浜中を作り上げてほしいと思います。また、これまで頑張ってきた旧委員長の皆さん、お疲れ様でした。きっと後輩が頑張りますよ。



第4回学校運営協議会

2月22日第4回学校運営協議会が実施されました。始めに、3年生が地域の方々への感謝を表すために作成した「感謝ビデオ」を上映しました。これまでの自分たちの活動の映像に合わせ、地域の方々への感謝を表現していました。委員の方にも好評で、「今の中学生の映像作成技術がとても高い」などの評価をいただきました。その後、次年度の学校経営方針の骨子(案)を承認していただきました。また、夢・未来・南浜プロジェクトや地域連携について協議し、次年度に向けた学校運営体制を確認しました。次年度第1回目は5月、食育ミーティングと同時開催となります。



生徒会企画による感謝セレモニー



2月29日の6限後、生徒会の企画で3年生への感謝セレモニーが開催されました。全校生徒で校舎内の間違いを探す「3ッケ」というレクリエーションです。1～3年生が学年を超えてグループを作り、校舎を回って間違いを探し、そこから導き出される言葉を当てるといいます。学年を超えたコミュニケーションで、それぞれが楽しい思い出になったと思います。その後、3年生から卒業の記念品として、松風祭のグリーンマーケットの収益で購入した卓上スタンドの贈呈が行われました。今後、TDRに設置し活用していく予定です。ありがとうございました。

3月の予定

- 1日 同窓会入会式
- 5日 第77回卒業証書授与式
- 6日 公立高校一般入試
- 7日 生徒会中央委員会
- 8日 班長会
- 11日 SC1日
- 13日 公立一般追検査
専門委員会
- 14日～15日 NRT
- 15日 終業式、公立合格発表
- 22日 離任式 (11:00～)
- 29日 新入生半日入学
- 部活動休止日 4, 5, 6, 11

隠居爺の独り言

昔から思っていたのですが、3学期制で言うところの3学期は時間が速く過ぎる感じがします。ついこの前正月だったのがもう3月です。そして時間の経過が歳をとるにつれて速く感じるように思います。人生残された時間が少ないからなのか、相対的な時間感覚の問題なのかわかりませんが、筒井康隆著「暗黒世界のオデッセイ」の中に収録されている「急流」という話のようです。最終的に時間が滝のように流れ落ちていく、そんな話です。ボーッと生きてると時間ももたないと思ってはいるのですが、人間毎日100%では生きていけません。自分の体と相談しながら、やれるうちにやりたいことをやってしまいたいと思う今日この頃です。やりたいことをやろうと思う感情と、それを行動につなげる意志の強さが老化防止には必要かと思えます。老体にむち打ち、もう少し頑張ろうと覚悟しました。